

ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「明治」の 投与スケジュール

〈変形性膝関節症、肩関節周囲炎〉

通常、1週間に1回、5週続けて膝関節腔内または肩関節内に注射します。ただし、注射の回数は症状によって適宜増減（増やしたり、減らしたり）します。

通常 1週間に1回、5週続けて



適宜増減 症状にあわせて増やしたり、減らしたり

詳しくは、医師の指示に従ってください。

● 主な副作用

以下のような症状に気づいたら、医師又は薬剤師にご相談ください。

- ・注射部位の痛み、腫れ
- ・注射部位に水が溜まる
- ・蕁麻疹などのぶつぶつ
- ・かゆみ
- ・顔面、まぶたなどのむくみ
- ・顔が赤くなる など

● 注射後の注意

- ・注射当日の入浴は避ける、もしくは感染防止のための処置について主治医から指導を受けて、清潔な状態が維持できるようにしてください。
- ・痛みがとれても激しい運動などで膝に負担をかけたり、重い荷物を持つなどで肩に負担をかけたりしないようにしてください。
- ・注射後、関節が痛みだした場合には、安静にしてください。それでも痛みが続くときは、主治医にご相談ください。

ヒアルロン酸Na関節注25mg シリンジ「明治」を 注射される方へ

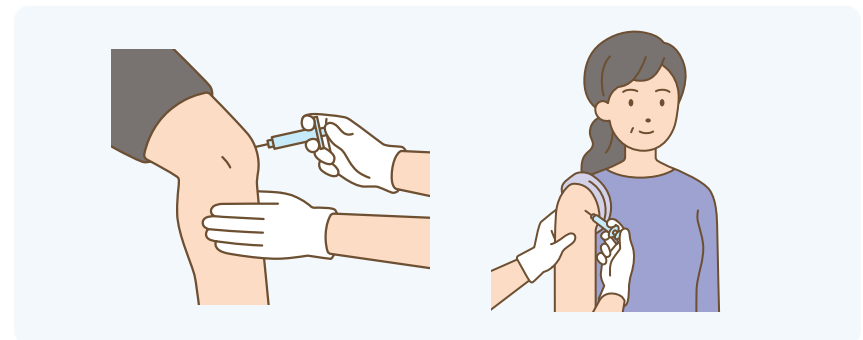


ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「明治」は、
『変形性膝関節症（へんけいせいひざかんせつしょう）』
『肩関節周囲炎（かたかんせつしゅういえん）』
『関節リウマチにおける膝関節の痛み』の治療に用いられる薬です。

この薬の主成分は、精製ヒアルロン酸ナトリウムです。

ヒアルロン酸はもともと、体内（目や皮膚、関節など）に存在します。皮膚では潤いやハリを与える役割を担っていますが、関節の中では潤滑（スムーズな動き）や弾性（衝撃の吸収）に必要な成分とされています。

ヒアルロン酸Na関節注を膝関節腔内または肩関節内に注射することで、膝、肩の関節の痛みや炎症をおさえ、動きを改善する効果が期待されます。

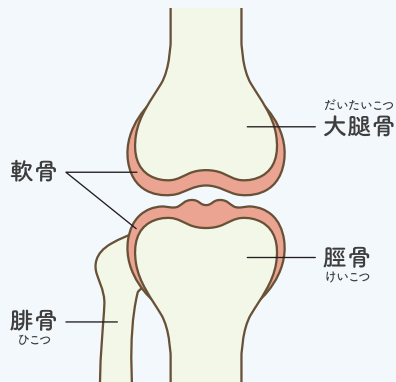


へんけいせいひざかんせつしょう 変形性膝関節症とは?

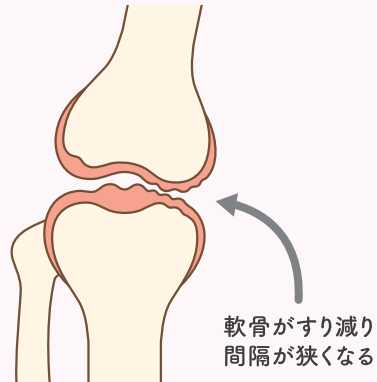
- 変形性膝関節症は、膝の軟骨がすり減り、関節と関節の間隔が狭くなることで痛みや腫れなどが生じる病気です。



健康な人の膝関節



変形性膝関節症の人の膝関節



- 症状が進むと、膝の曲げ伸ばしが制限されて動きが悪くなったり、膝関節が変形します。

初期

立ち上がり、歩きはじめなどに膝が痛む(休めば痛みがとれる)

中期

歩くと膝が痛み、正座や階段の昇降が困難

末期

変形が目立ち、膝がピンと伸びず歩行も困難になる

かたかんせつしゅういえん 肩関節周囲炎とは?

- 肩関節周囲炎は「五十肩」とも呼ばれており、肩関節の周囲に炎症が起こることで、肩関節の痛みや動かしづらいなどの症状があらわれます。



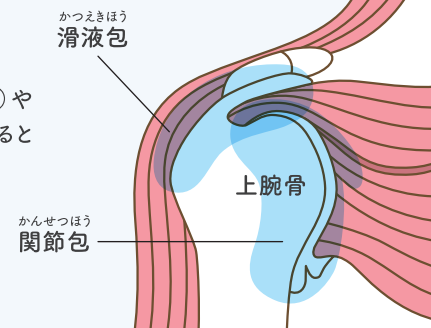
肩関節の痛み

肩を動かすときや、夜中にズキズキする痛み(夜間痛)が生じることがある。

肩関節の動き

肩が動く範囲が狭くなり、動きが悪くなる。

肩関節の動きをよくする袋(滑液包)や関節を包む袋(関節包)が硬くなるとさらに動きが悪くなる。



- 典型的な肩関節周囲炎の場合、次のような経過を経て回復していくと考えられます。

炎症期

- 強い痛みがある
- 夜間痛で眠れないことがある

拘縮※期

- 痛みが落ち着いてくる
- 肩が動かしにくくなる

寛解期

- 痛みはほとんどない
- 肩の動きが徐々によくなる

※拘縮: 関節が動きにくくなった状態